



5月はマリア様の月です。皆様はマリア様にどんなイメージをお持ちでしょうか？何か心に残る思い出はありますか？

私はカトリックとは無縁の家庭に育ちましたが、10歳の時、興味本位で教会に行ってみたくなり、母に頼んで



近くのカトリック教会に連れて行ってもらい、毎週日曜日教会に行き始めました。

その1年後、教会の人たちと秋田の聖体奉仕会のマリア様に会いに行きました。
(受洗するのはその後20年という長いブランクを経てからです)

まだ信仰の「し」の字も根付いていない時期でしたが、目の前の木製のマリア様が涙を流す（当時ちょうど流していた時期でした）という話を聞き、厳かな気持ちになったことを覚えています。

私を含め4人の子どもと一緒にマリア様の前でお祈りをした後、シスターが「この子たちからお花のいい香りがするわ。きっとマリア様が喜んでいらっしゃるでしょう」とおっしゃいました。当時本人たちは誰一人としてその意味が分からなかったと思いますが、今思うと、直接マリア様からの祝福を受けたのだと感動と感謝の喜びが湧き上がってきます。

また6月は「イエスのみ心（聖心）」の月ですね。「聖心」はイエスの心臓を意味すると同時に、イエスの愛を意味しています。

あるシスターから、受洗後まもなくいただいた「イエスのみ心の聖時間」友の会カード（ケベックカリタス修道女会）（*）を久しぶりに出してきました。52枚のカードのイエスのみ心に関連したみことばと、黙想のための言葉が書かれていて、毎日の祈りに役立ちます。日頃、じっくりと祈りに専念できず、反省することが多いのですが、その話をある方にしたところ、毎日生活している事、働いていること、一つ一つの動作が祈りそのものなのだを教えていただきました。日々の雑事もみな神様からの恵みと感謝し、一つ一つ神様にささげるために心を込めて行おうと思いました。

（* 「イエスのみ心の聖時間」友の会カードの実物をご覧になりたい方は受付まで。コピーもできます。）

広報部 槻田



内容【信徒委員会】駐車場について・奉納について【営繕部】除草のお礼と防草シート敷設
【青少年養成部】初聖体について【成人養成部】幼児教育講演会・CAS 展覧会・待降節の黙想会
【青年会】 【サモア～主によばれて（28）】

<信徒委員会・各部からのお知らせ>

<信徒委員会より>

1・駐車場について

主日のミサの日は、教会の門の前のスペースは緊急車両の駐車スペースとして確保しています。(赤いカラーコーンを設置)絶対に駐車しないようお願いいたします。

2・ミサの奉納について

5月12日のミサより、ホスチア、ぶどう酒、献金の奉納を再開しています。献金箱は置かず、ミサ中に献金袋を前列から回していきます。

<営繕部より>

4月21日ミサ後に行った除草作業にはご協力ありがとうございました。

その後、業者に依頼し、5月14、15日に司祭館南側に防草シートの敷設工事を行いました。当分(おそらく10年近く)この部分の草取りは不要になると思われま

<青少年養成部より>

6月2日(日・キリストの聖体の主日)のミサの中で3名の子どもの初聖体を行います。ミサ終了後、写真撮影、その後ロビーでお祝いの乾杯を行いますので、すぐに帰らずお待ちください。

<成人養成部より>

- ・9月29日(日) 幼児教育の専門家を招いた講演会を予定(詳細は下の記事「大丈夫、大丈夫」をご覧ください。
- ・11月CAS(クリスチャンアートスペース) 展覧会を予定しています。
- ・12月の待降節中にイエズス会の神父様をお招きして「1日黙想会」を実施する予定です。近くなったら詳細をお知らせします。



「週刊こじか」に横山さんが登場



いつもミサの侍者や青年会で活躍している横山さんがオリエンス宗教研究所発行の子どものための週刊冊子「こじか」4月21日に号に「青年になって振り返る 神さまとの出会い」の連載18回目に登場しました。記事のコピーを1階ロビーに貼りだしますので、ご覧ください。これからもますますの活躍をお祈りします。

「大丈夫、大丈夫」

日時：9月26日(日曜日) ミサ後

講演者：前田辰恵さん(モンテッソーリ幼児教育者・前大宮教会信徒)

対象：小学生までのお子さんの保護者(祖父母も可)

*昼食をご用意します。また託児もあります。

*不明な点はお問い合わせください。

成人養成部 石崎・山口

青年会より

MFC (MEETING FRIENDS IN CHRIST) の集い

4/28 「謙遜」について分かち合いをし、今年から新しく行う活動の計画を立て、充実した集いになりました。次回 5/26 は 6/2 に初聖体を受ける子供達へのプレゼントカード作りをする予定です。

(12:30～モニカの部屋 (台所))

【音楽グループ-Musical group-】

音楽グループ；5/5 新メンバーが加わり、にぎやかに新しい英語の音楽に挑戦しました。

次回 6/2 12:30～ヨハネの部屋 “U.S.A. For Africa-We are the World”を練習します。(気持ちも含め)



若い方はぜひご参加ください。

* “U.S.A. For Africa-We are the World” (ウィー・アー・ザ・ワールド)

1985 年にアメリカで発売された歌。アメリカの著名なアーティストたちが「U.S.A.フォーアフリカ」として集結し、アフリカの飢餓と貧困層を解消する目的で作られたキャンペーンソング。

石黒 (昇)

† サモア～主に呼ばれて (28) †

サモアに行く飛行機に乗り込み、オーストラリアを後にしたのは確か 7 月 13 日だったと思います。一旦ニュージーランドのオークランドに向けて飛び立ちました。オークランドまでは 4 時間です。

時差の関係と時間が早まる方に向かうので、午前中に離陸した飛行機がオークランドに着いた頃には、外は薄暗くなっていました。オークランドでは、2 時間ほど飛行機が止まっていた。ニュージーランドはサモアとの結びつきが強いので、人や荷物がたくさん載ってくるのでしょうか。

飛行機は定刻に次の目的地のトンガに向かって離陸しました。トンガまでは、3 時間弱。飛行機が高度を落として、空港に近づくと突然、真っ暗な中に滑走路の光が見えました。当時のトンガの国王は親日家で、日本との結びつきもあり、国名になじみがありました。空港の外には出られませんでした。せっかくなので飛行機から降りて

トンガの空気を吸ってみることにしました。空気が暖かく、熱帯に来たなという感じがしました。すぐに飛行機に戻り、最終目的地のサモアに向けて飛び立ちました。

サモアでは、身元引受人になってくれる学校の校長先生が迎えに来てくれることになっていました。サモアに着いたのは、真夜中、おそらく 2 時くらいではなかったかと思います。サモアは当時、日付変更線の向こう側だったので、オーストラリアを出た日の 2 時。つまり 7 月 13 日の午前 2 時にサモアに到着しました。サモアはトンガよりさらに赤道に近いので、熱かったです。

サモアについて、少し説明します。サモアは南太平洋のど真ん中、日付変更線のすぐ近くにあり、赤道のすぐ南側、緯度で言うと南緯 14 度くらいです。ニュージーランドとハワイを結ぶ直線上のニュージーランド寄りにあります。ハワイからは飛行機で 6 時間、ニュージーランドからは 4 時間くらいの距離です。

日本との時差は-19 時間。前日の 5 時間後です。季節は 2 季で雨季と乾季。雨季は 12 月から 5 月くらいまでです。雨季が暑くて、乾季は涼しいです。乾季だと当時で最高気温が 30°C を少し超える程度。夜は 20°C を下回ることもあるので、シーツや毛布を掛けて寝ていました。雨季は最高気温が 32°C を超えることがありました。最低気温も 23 ~ 25°C 程度ですが、海に近いので寝苦しいことはなかったです。最近では地球温暖化の影響でもう少し暑いようです。

サモアは主に 4 つの島から成ります。面積は鳥取県とほぼ同じ大きさです。一番大きくて、人口が多く首都がある島が、ウポル島。私もこの島に滞在していました。横に長くサツマイモのような形の島です。人口は当時で約 15 万人、そのうち 10 万人くらいがウポル島に住んでいます。もう一つの大きな島はサバイイ島。サバイイ島には高い山があり、山が海に浮かんでいるような感じです。

人種はポリネシア人がほとんど。宗教もほぼキリスト教で、カトリックが 20% 程度です。首都はアピアで、ウポル島の北海岸の真ん中あたりにあります。言語はサモア語です。英語は小学校から学習するので、ほとんどの人は英語が話せます。

主食はタロイモです。里芋に似ていて、葉っぱは里芋と同じように見えますが里芋より大きくなります。色も似ているので、仲間だと思えます。また青いバナナを調理して食べたり、パンの木の実というのも主食になります。周りが海なので魚はよく食べます。鶏肉も飼っているのですが、わりと食べられています。果物はバナナやパパイヤは年

中収穫されて、よく食べられています。マンゴーもよく見かけます。パイナップルも育ちますが、収穫まで時間がかかるので、値段が高かったように思います。

服装は半そでの T シャツに、短パン。女性はワンピースを着ています。伝統的なラバラバという布を 1 枚腰に巻いている人も多いです。スカートのようなので、涼しいです。これは男女とも着用します。私も愛用していました。靴は履かず、サンダルです。昔の日本のビーチサンダルと同じ、ゴムのビーチサンダルです。地面は溶岩がごつごつしているところが多いので、はだしでは足を痛めてしまうからでしょうか、ほとんどの人がビーチサンダルを履いています。

衣食住の中で一番特徴的だったのは、住環境です。ファレと言われる家は屋根と柱のみです。壁はありません。形は楕円形で、部屋という概念はないので、いふなれば 1 部屋。大家族で住んでいるので、ファレが 2 つ、3 つ敷地内にあることも。当時でも、西洋式の住宅も増えてきていましたが、村の方ではまだまだファレは健在。西洋式の住宅に住んでいてもファレは必ずどの家にもありました。暑いので、壁がなければ、風が直接吹いてきて涼しいです。雨が強いときは普段は屋根の下に畳み込んであるすだれのようなものを降ろして雨をしのいでいました。

見沼区 齊藤

🍀 おおみや教会通信はカトリック大宮教会の HP (<https://catholic-omiya.net>) でご覧になれます。

* ご意見や投稿 (本などの感想、特集してほしいことなど) を募集しています。

FAX か郵送で受け付けています

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町 2 丁目 3 5 0 FAX 048-641-2724

カトリック大宮教会 広報部宛

* おおみや教会通信 次号の発行は 6/16 予定、原稿締め切り 6/2

